



岩間有秋年海客

大早有日年海客

以取の量知仁海客

筆正要書中まの化の正年

心得しよの毎夜彼はそと

のしおさ失禮と後

いんし切亦今と

用用え江天の出と

何房の品の賜り年

年取惟了帰院

此年主人先代に録

年書籍の取由乾

新しき時あふ仕



新しきもの時分に出仕
是

比に帰還して久自由

又の如く或る時程

元はの旅宿に相因

兼て紙中へは移

中へ 景江戸に用

古くは心は疾く作

車路に何卒 湯田所

以歸之時 毎と云ふ分

相知中へ 旅宿

相親美 下へして

古居に控 草中

今心は 逢中

車路 有る

七